

令和7年度 第4回 北九州市社会教育委員会議

日時 令和8年2月6日（金） 10:00～12:00

場所 北九州市立生涯学習総合センター3階 ホール

1 総務市民局 局長挨拶

2 議長挨拶

3 議題

次期「北九州市生涯学習推進計画」策定について

[資料]

次期「北九州市生涯学習推進計画」策定について

これまでの次期推進計画に関する議論経過

2024年11月7日

令和6年度 第2回 北九州市社会教育委員会議

社会教育委員によるグループワーク「次期推進計画のキーワードを考える」

2025年2月10日

令和6年度 第3回 北九州市社会教育委員会議

社会教育委員によるグループワーク「社会教育・生涯学習を推進した未来を創造する」

2025年2月10日

第1回 次期生涯学習推進計画策定に向けた有識者会議

次期推進計画の策定に向けた意見交換

2025年5月16日

令和7年度 第1回 北九州市社会教育委員会議

次期推進計画（たたき台）に対する意見交換（グループワーク）

2025年7月7日

第2回 次期生涯学習推進計画策定に向けた有識者会議

次期推進計画の方向性・コンセプト、基本方針について

2025年8月18日

令和7年度 第2回 北九州市社会教育委員会議

次期推進計画（素案）に対する意見交換

2025年11月7日

令和7年度 第3回 北九州市社会教育委員会議

次期推進計画（案）に対する意見交換

2025年11月～12月

次期推進計画（案）に対する市民意見募集

2026年1月27日

第3回 次期生涯学習推進計画策定に向けた有識者会議

次期推進計画（最終案）等について

次期推進計画（案）に対する市民意見募集

1 募集期間

令和7年11月12日（水）から12月12日（金）

2 意見提出状況

- (1) 意見提出者数 12
(2) 提出意見数 47件

意見提出者 (団体・個人)	意見提出方法			
	電子申請	持参	電子メール	FAX
12	8	2	1	1

次期推進計画（案）に対する市民意見募集

3 意見の内訳

内訳	件数
1. ビジョン全体にかかわるもの	7
2. ビジョン策定の背景、学びの現状（1～14ページ）	7
3. ビジョンが目指す未来、変革点（15、16ページ）	3
4. ビジョンのコンセプト（17～21ページ）	4
5. ビジョンの基本方針（22ページから31ページ）	15
6. その他	11

4 ビジョンへの反映状況

項 目	件数
趣旨を考えて計画に記載されていると考えられるもの	23
意見を踏まえて計画に追加・修正をするもの	1
ビジョンに追加・修正はしないが引き続き検討するもの	7
その他（生涯学習全般に関わる意見など）	16

次期推進計画（案）に対する市民意見募集（具体的な意見等）

- 次期推進計画（案）全体への意見

（肯定的な意見）

長期的な視点、大きな方向性を示している点、地域コミュニティ・つながりづくりに関する視点

（修正等の意見）

計画の具体性について（個別事業の記載）、見直し期間

- 個別の事業等への意見

- ・ オンライン等の学びの機会の充実
- ・ 市民活動・NP0等との連携
- ・ 「学び」と「活動」の循環づくり
- ・ 学習機会に関する情報発信の強化
- ・ 大学等との連携の促進

- ・ リスキリング、リカレント教育の推進
- ・ 学びを通じた多様な立場の人への理解
- ・ 若者の地域参加の重要性
- ・ 「自分たちごと」化のための学びの手法

- その他の意見

- ・ 文言のわかりづらさ（VUCA）
- ・ 学びを通じた多様な立場の人への理解
- ・ 「自分たちごと」化のための学びの手法

- ・ 市民センターのオンライン環境とオンラインのためのサポート体制
- ・ 「学び」から「活動」への仕組みづくり

2026,1,27 第3回次期生涯学習推進計画策定に向けた有識者会議 意見

<次期推進計画（最終案）について>

- 社会的背景や課題を踏まえて考えられていてよくまとめられている。
- ビジョンの見直しスパンに関する記載部分を分かりやすくすべき。
- 多文化共生は北九州市では長年取り組まれてきた特徴の1つ。ビジョンではその部分が見えづらい。基本方針内のキーワードに盛り込むべき。
- ビジョンの目指す未来を実現するための核となるのは、「私たちごと」と「ウェルビーイング」。この部分がしっかりと伝わるような工夫を。
- 孤独化・孤立化が進み、様々な課題につながっていく。学びを通じて関係性ができることで「私たちごと」化を進めていくことが重要。
- 将来が見通せず、価値観が多様化していくからこそ、自ら学び、自ら未来を創っていくことが大切。

<次期推進計画に基づいた取り組みに向けて>

- 学びを社会参画へつなげるためには、その活動の楽しさが伝わることが重要。それらを見える化していく具体的な取り組みが必要になる。

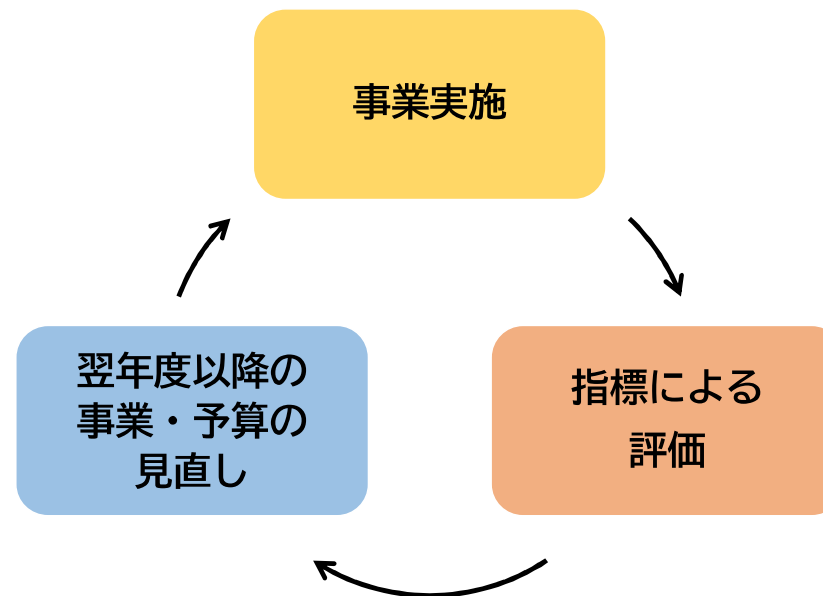
指標の考え方の整理

【指標の位置づけ】

生涯学習行政の理念・方向性を示す「北九州市生涯学習ビジョン」では、従来の個別の事業で指標を設けるのではなく、生涯学習の取組全体としてその方向性が合致しているかを評価するするための指標を設定

【指標の活用】

指標をもとに「北九州市生涯学習ビジョン」と取組全体の方向性を検証し、翌年度以降の生涯学習の予算・事業等の見直しを進める



2026,1,27 第3回次期生涯学習推進計画策定に向けた有識者会議 意見

<指標について>

- 指標は大きなもので良いと考える。
- 数値は目標値という設定ではなく、動態指標として設定してはどうか。「学び」は数値では測ることは難しいため、一定期間の変化を見ていくという方法が良いだろう。

<質的な調査について>

- アンケート調査以外にも、自由記載等による質的な調査も必要ではないか。
- 講座受講者だけでなく、主催者側や市民センタークラブのような定期的に活動するような利用者等も対象にし、多面的に評価していくことも大切。

<質的な調査について>

- 将来的な計画の見直しに向けて、検証できるような基礎となるデータを蓄積しておくことが重要。

指標について

3つの基本方針に沿って、5つの指標を設け、基礎数値からの変化を把握し評価する。

テーマ	対象	調査内容	基礎数値
【基本方針①】 生涯学習活動に対する満足度	講座等 参加者	生涯学習総合センターや市民センター等での生涯学習活動に対する満足度	92%
【基本方針①】 生涯学習を通じた幸福度の変化	講座等 参加者	生涯学習総合センターや市民センター等での生涯学習活動への参加を通じて、幸福度（生活における充実感等）が向上した割合	81%
【基本方針②】 生涯学習を通じた地域への 関心度の変化	講座等 参加者	生涯学習総合センターや市民センター等での生涯学習活動への参加を通じて、自分が暮らす地域への関心が増した割合	96%
【基本方針②】 生涯学習を通じた地域における 関わりの変化	講座等 参加者	生涯学習総合センターや市民センター等での生涯学習活動への参加を通じて、地域における新たな繋がりが生まれる、またはこれまでの繋がりをより実感した割合	90%
【基本方針③】 生涯学習を通じた地域活動等への 関わりの変化	講座等 参加者	生涯学習総合センターや市民センター等での生涯学習活動への参加をきっかけに、地域活動やボランティア活動への参加した割合	13%

※市民センター等の講座受講者や生涯学習活動参加者を対象にアンケートにより調査。

※アンケート調査に加えて、講座主催者、クラブ活動参加者等に自由記載による質的な変化の調査も検討する。

※基礎数値は、令和6年度の各種調査等に基づき設定。

※上記指標以外にも、市民センター利用者や講座受講者数等といった基礎的なデータを収集し、参考数値として活用する。

【社会的背景】

- 先行きが不透明で将来の予測が困難な時代の到来
- 人生100年時代の到来
- 地域コミュニティの衰退、課題の多様化・顕在化

【進行する社会課題】

- 低い幸福度
22か国中最下位（2025年ハーバード大学調査）
- 孤独・孤立化の進展
・4～5割の人が孤独を感じる社会（人々のつながりに関する基礎調査）
・2040年、単身世帯は約40%に
- 既存コミュニティの弱体化
自治会・町内会の加入率の低下（北九州市では30年で約40%減）、PTAの弱体化

【「学び」のニーズ】

- いつでも、どこでも、気軽に学びたい
生涯を通じて学び続けられる環境を
- 変化の激しい社会に対応していきたい
キャリアアップ、スキルアップのための学びの機会を
- 豊かな人生を送りたい
学びや健康づくり、多様な人とつながる機会を

【「学び」の現状】

- 学んでいない理由
「きっかけがない」、「時間がない」がそれぞれ約3割
- 生涯学習に関する国・自治体への要望
国や自治体に対する要望は、学習の機会・内容の充実が約4割、学習支援の充実が約3割
- 学びの成果の活用
地域や社会の活動への参加意欲はあるが、学びの成果を活用しているのは約1割
地域や社会の活動へつなげるために必要とされていることは、講座等の学びを通じたきっかけ作りが約5割

内閣府「生涯学習に関する世論調査」

【目指すまちの未来（2040年）】

共に学び、共に育つ
「共育」が拓くまちの未来

【変革点】

生涯学習を身近に
「学び」と「活動」で幸せに
「知らない・誰か」のことを
「私たちごと」に

【次期計画のポイント】

- ①地域コミュニティビジョンと歩調を合わせた**長期的な視点**での策定
- ②企業、NPO、学生、社会教育士等の**多様な力を生かした学びと活動の推進**
- ③ICTを活用した生涯を通じて**学び続けられる仕組みづくり**

北九州市生涯学習ビジョン （次期生涯学習推進計画）

<計画のコンセプト>

“学び”と“活動”による
関係作りを通じた
多様なコミュニティの醸成

「私たちごと」化を通じた
北九州市の未来を創る
人材の育成

<計画の基本方針>

【“学び”と“活動”】

自分らしく、生き生きと
暮らすことができる
“学び”と“活動”の機会の創出

【地域づくり】

持続可能な地域づくりに
向けた地域力の育成

【人づくり】

未来の社会の創り手を
育て・支える人材の育成

令和8年度の
重点的な取組

- オンラインやオンデマンドを活用した学びやすい環境づくり
- 情報発信や学びの支援人材の育成を通じた支援体制の強化

- 市民センターを支える若者ボランティア『コミュニティ・クルー』制度
- 市民センタークラブの講師等が次の地域人材を育成する『地域デビューサポーター事業』

- 大学との連携拡充による未来の作り手の育成
- フリースペースやWi-Fiの整備による生涯学習センターのサードプレイス化

北九州市生涯学習ビジョン(案)

2026年2月6日

計画策定の趣旨

北九州市では、市民の学習活動を総合的に支援するため、これまで以下のような計画を策定してきました。

平成10年度	北九州市生涯学習推進構想
平成14年度～17年度	北九州市生涯学習推進計画
平成18年度～22年度	北九州市教育行政総合計画（いきいき学びプラン）
平成23年度～27年度	北九州市生涯学習推進計画
平成28年度～令和2年度	北九州市生涯学習推進計画≪“学びの環”推進プラン≫
令和3年度～7年度	北九州市生涯学習推進計画≪“学びと活動の環”推進プラン≫

「北九州市生涯学習推進計画≪“学びと活動の環”推進プラン≫」の策定から5年が経過することから、次期生涯学習推進計画を策定するものです。

➤ 計画の位置づけ

「生涯学習推進計画」は、北九州市・新ビジョン（市の基本構想・基本計画）の部門計画の1つです。
加えて、教育基本法第17条第2項の規定に基づく、地方公共団体が定める「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置付けています。

➤ 計画の対象

対象範囲は、主に「社会教育」「家庭教育」分野です。

生涯学習とは

生涯学習とは、人々が生涯にわたって、あらゆる機会や場所で、学び続ける活動のことを意味します。

生涯学習の目的は、自己実現、社会参加、職業能力の向上、生活の質の向上など様々です。学習する場所も、家庭、学校、職場、市民センター、図書館、オンライン講座などと多様です。

生涯学習には、知識や技能、態度などを身につける学習行為である「学び」の側面だけでなく、それらを生かして行動したり、人とのかかわりを持ったりといった行動的な側面である「活動」が含まれます。

生涯学習の例としては、以下のようなものがあります。

- ◆本を読んだり、講座やセミナーに参加したり、オンライン動画を視聴する。
- ◆資格取得のための勉強をする。
- ◆健康づくりやスポーツ、レクリエーションに参加する。
- ◆音楽や手芸、園芸などの趣味を楽しみ、その成果を発表する。
- ◆ボランティア活動や地域の活動に参加する。

このように生涯学習には様々な「学び」や「活動」が含まれており、日々の生活そのものが生涯学習であると言えます。

私たちは、生涯学習が知識やスキルの習得にとどまらず、「学び」や「活動」を通じて、人とのつながりが生まれ、社会にかかわる機会を生み出し、自ら社会を作っていくという“営み”であると考えます。

生涯学習における「学び」と「活動」のサイクル

生涯学習の「学び」と「活動」は、それぞれが独立している場合もあれば、一連のサイクルとしてつながっている場合も多くあります。

一連のサイクルでは、次のように進んでいきます。

- ①「学び」を通じて、新しい知識・技能・価値観を習得します。
- ②学んだことを地域・仕事・生活といった様々な場で「活動」として実践します。
- ③「活動」を通じて、うまくいかなかったことや新たな知識の必要性といった「気づき」が生まれます。
- ①´「気づき」に基づき新たな「学び」へとつながり、新たな分野や視点で学習を深めます。
- ②´新たな「学び」を生かした「活動」に取り組みます。
- ③´新たな活動に基づく「気づき」が生まれ、次の「学び」へ繋がります。

「学び」と「活動」のサイクルを通じて、学習がより深まり、よりよい活動へと繋がります。

このサイクルを通じて、「学び」や「活動」は、一人ひとりの生活や地域コミュニティ、社会に活かされます。



次期推進計画策定にあたって考慮すべき社会的背景

生涯学習・社会教育に関連する社会的背景

01

先行きが不透明で

将来の予測が困難な時代の到来

AI技術の進化や気候変動など、あらゆる物事が激しく変化し、複雑かつ曖昧な様子が続いて将来の予測が難しい時代を迎えています。

そのような社会では、一人ひとりが年齢を問わず、常に学びを通じて幅広い知識・技能と柔軟な思考力を更新しつづける必要があります。

02

人生100年時代における ウェルビーイングの実現

人生100年時代を迎え、長期的な視点でより良い人生を考えることが必要となる時代を迎えています。

長期的な視点でより良い人生を送るためには、心身の健康に加えて、社会的に良好な状態（**ウェルビーイング**）であることが欠かせません。そのためには、趣味やボランティア活動等を通じた人とのつながりづくりが重要となります。

03

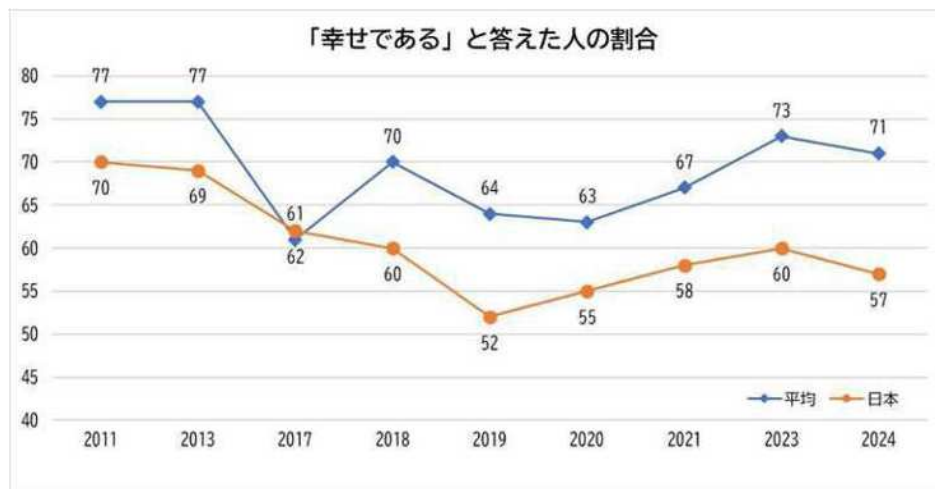
様々な社会変化を背景とする 地域課題の顕在化、 課題の多様化・複雑化

これまで地域社会を支えてきた地縁組織の弱体化により、地域コミュニティの希薄化が進行しています。

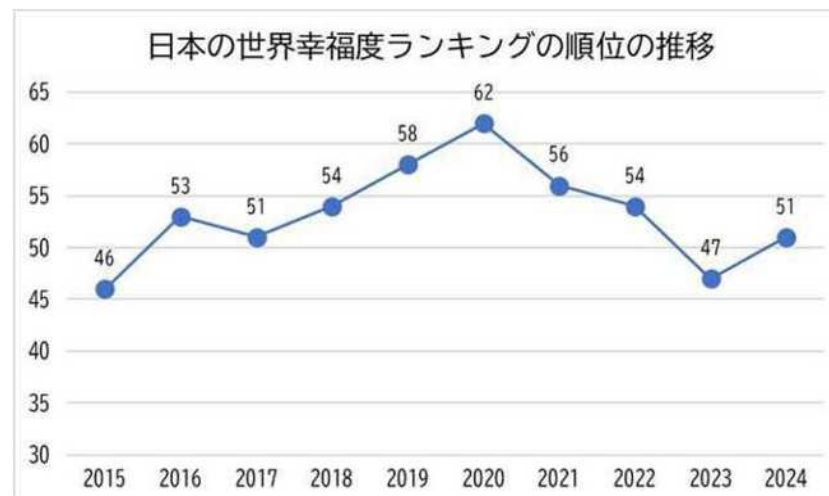
そのような中、多様化・複雑化する地域課題を解決、さらには課題を発生させない、課題を早期に発見できるような新たなつながりづくりが必要です。

01 低い幸福度

- 5年間の持続的幸福度を測ることを目的とした「グローバル幸福度調査」において、22の国と地域中、日本は最下位に。（2025年4月）
- 2025年版の世界幸福度レポートにおいて、147カ国・地域中、日本は55位。G7の中で最下位。



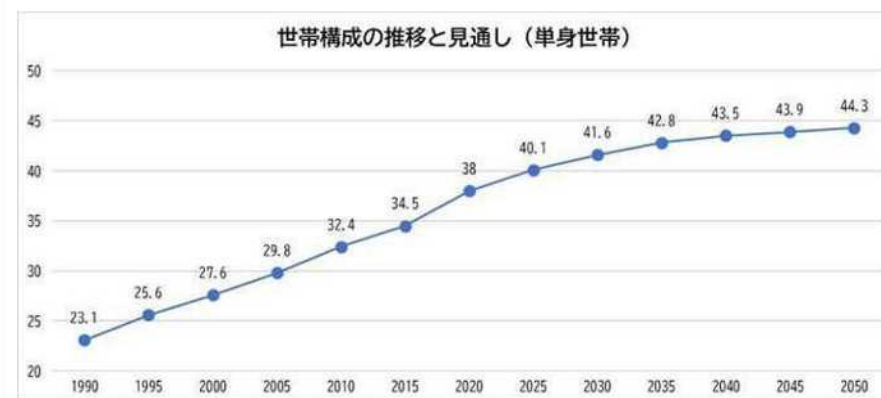
2024年イプソスグローバル幸福度レポート



世界幸福度ランキング

02 孤独・孤立化の進展

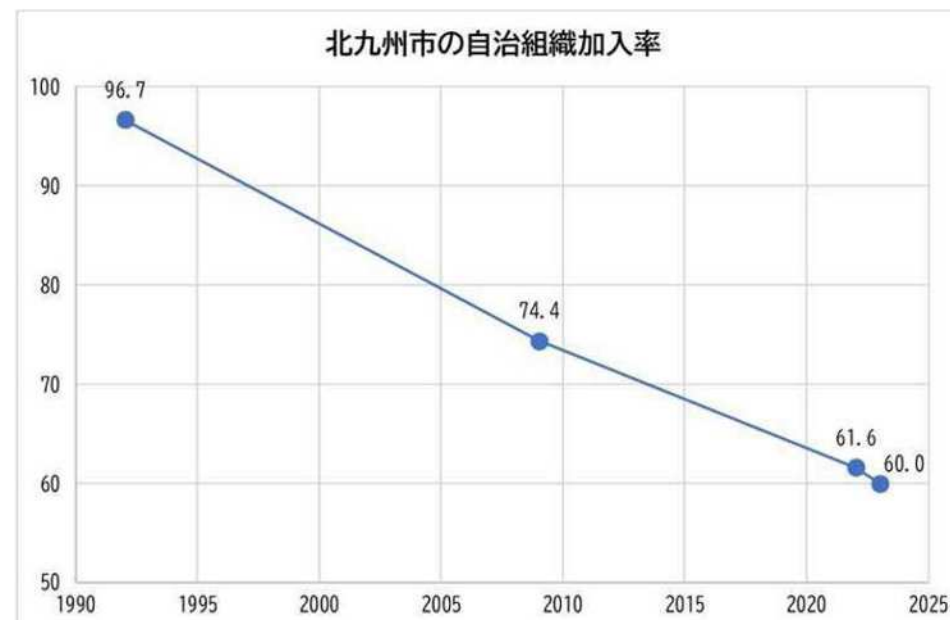
- 「人々のつながりに関する基礎調査」では、令和3年度の調査開始以来、孤独を感じている人の割合は4～5割程度。
- 2040年には単身世帯が43%、うち高齢者単身世帯が19%に。（国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）（令和6年推計）」）



総務省統計局「国勢調査」、
国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）（令和6年推計）」
※2020年まで実績値、2025年以降は推計値

03 既存コミュニティの弱体化

- 従来の自治会やPTAといった既存コミュニティの加入率の低下、組織数の減少。
(北九州市の自治会加入率は30年間で約40%の減少)



「学び」のニーズ

◆いつでも、どこでも、気軽に学びたい

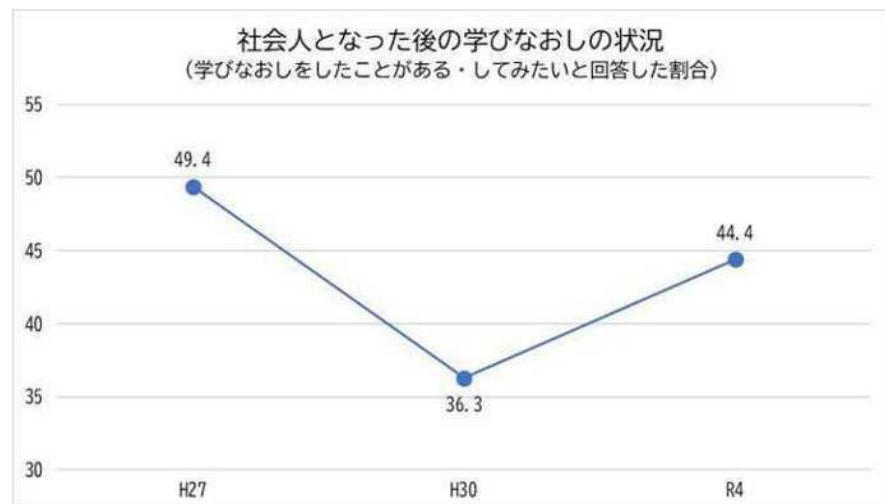
人生100年時代、多様なライフスタイルにも対応した、生涯を通じて学び続けられる環境が求められています。

◆変化の激しい社会に対応していきたい

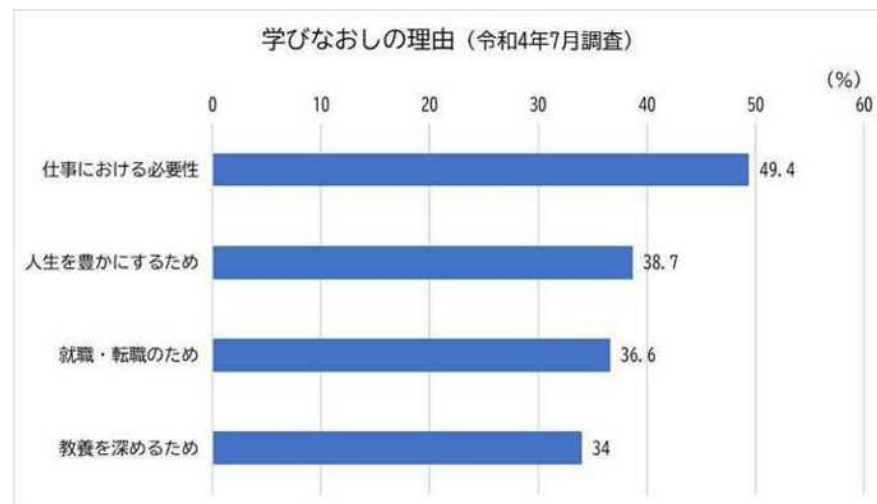
不安定な社会情勢や急速な技術革新など、将来の予測が困難な時代を迎え、生活においても、ビジネスにおいても学び続ける。

◆豊かな人生を送りたい

人生100年時代を豊かに過ごすために、生涯学習を通じた学びや健康づくり、多様な人とのつながりが重要に。



内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」を基に作成

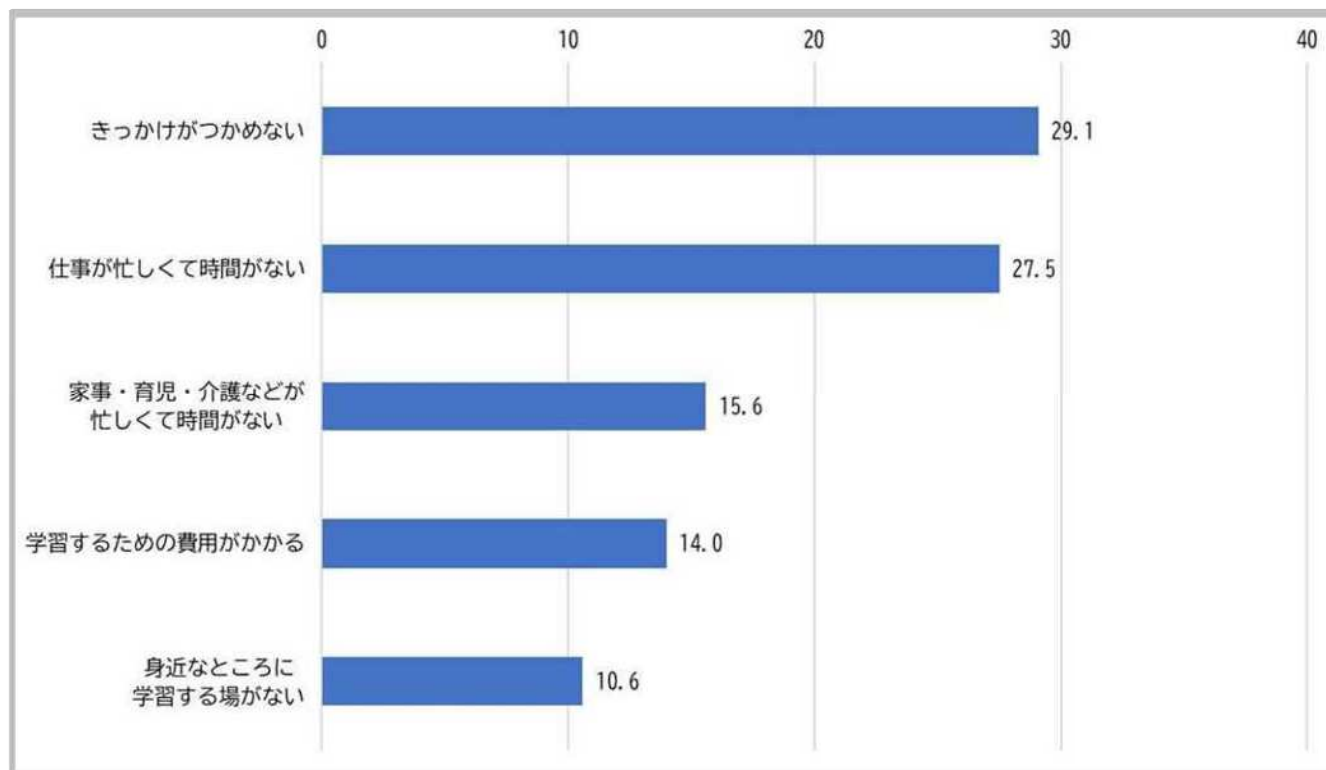


内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」(令和4年7月調査)を基に作成

「学び」の現状

◆学習していない理由（複数回答・上位項目抜粋）

学習をしていない理由として、きっかけや時間がないという理由も多くなっている。

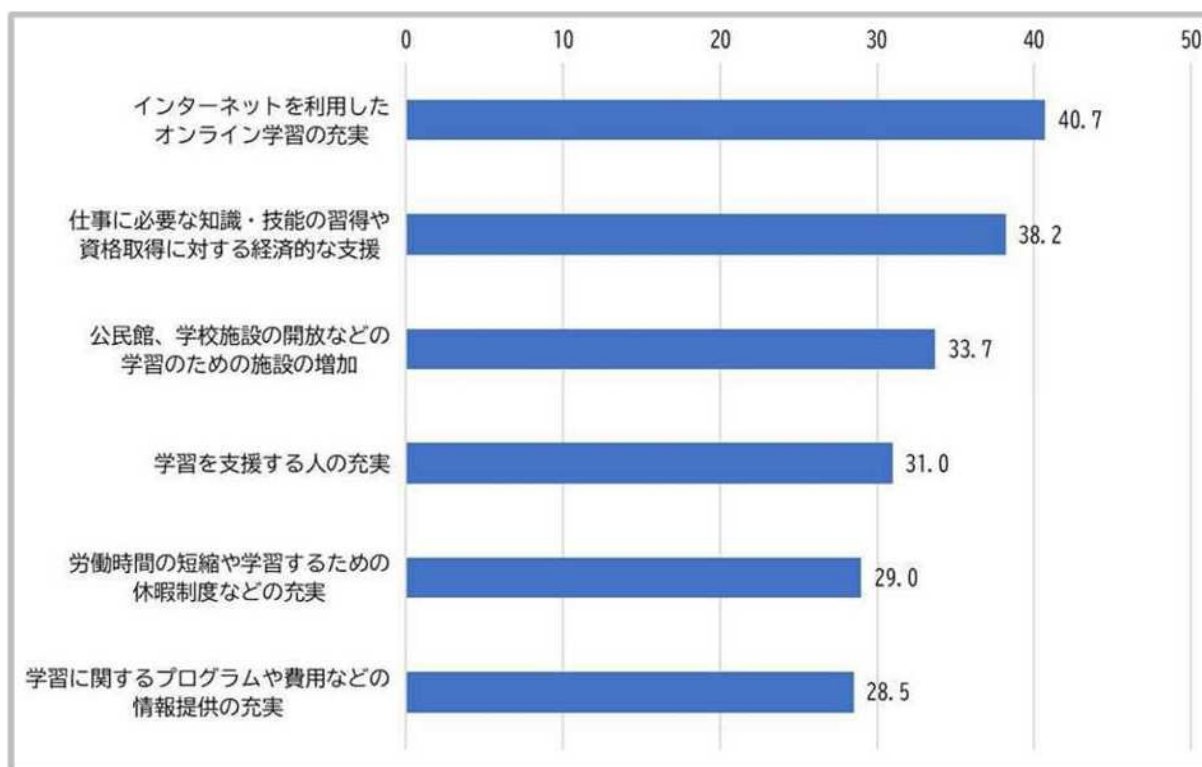


出典：内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」（令和4年7月調査）
(<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-gakushu/2.html#midashi7>)

「学び」の現状

◆生涯学習を盛んにしていくために国や地方自治体が力を入れるべきこと（複数回答・上位項目抜粋）

学習機会や内容の充実に加えて、学習支援者や情報提供の充実も求められている。

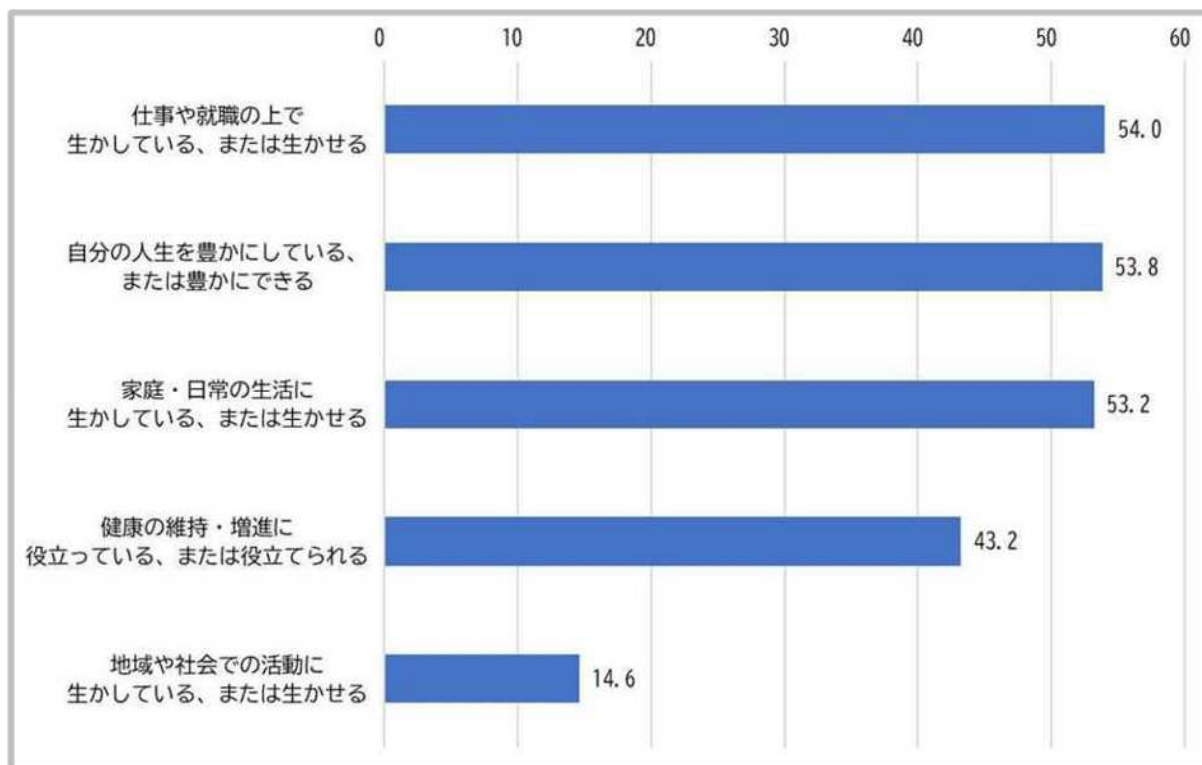


出典：内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」（令和4年7月調査）
(<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-gakushu/2.html#midashi7>)

「学び」の現状

◆学習成果の活用状況（複数回答・上位項目抜粋）

仕事上の活用に加えて、人生を豊かに・健康増進に役立てられているものの、地域や社会での活用の限定的。

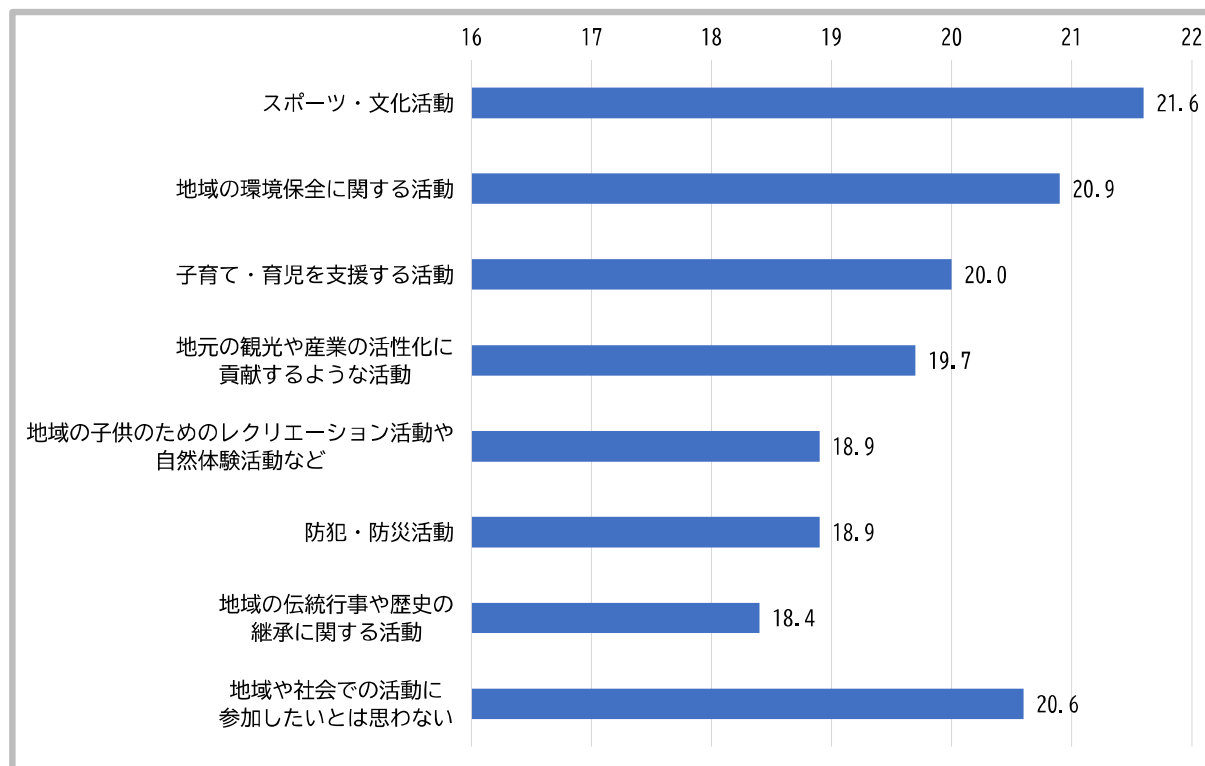


出典：内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」（令和4年7月調査）
(<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-gakushu/2.html#midashi7>)

「学び」の現状

◆地域や社会での活動への参加意欲（複数回答・上位項目抜粋）

一定数の割合が地域や社会での活動への参加意欲を持っている。

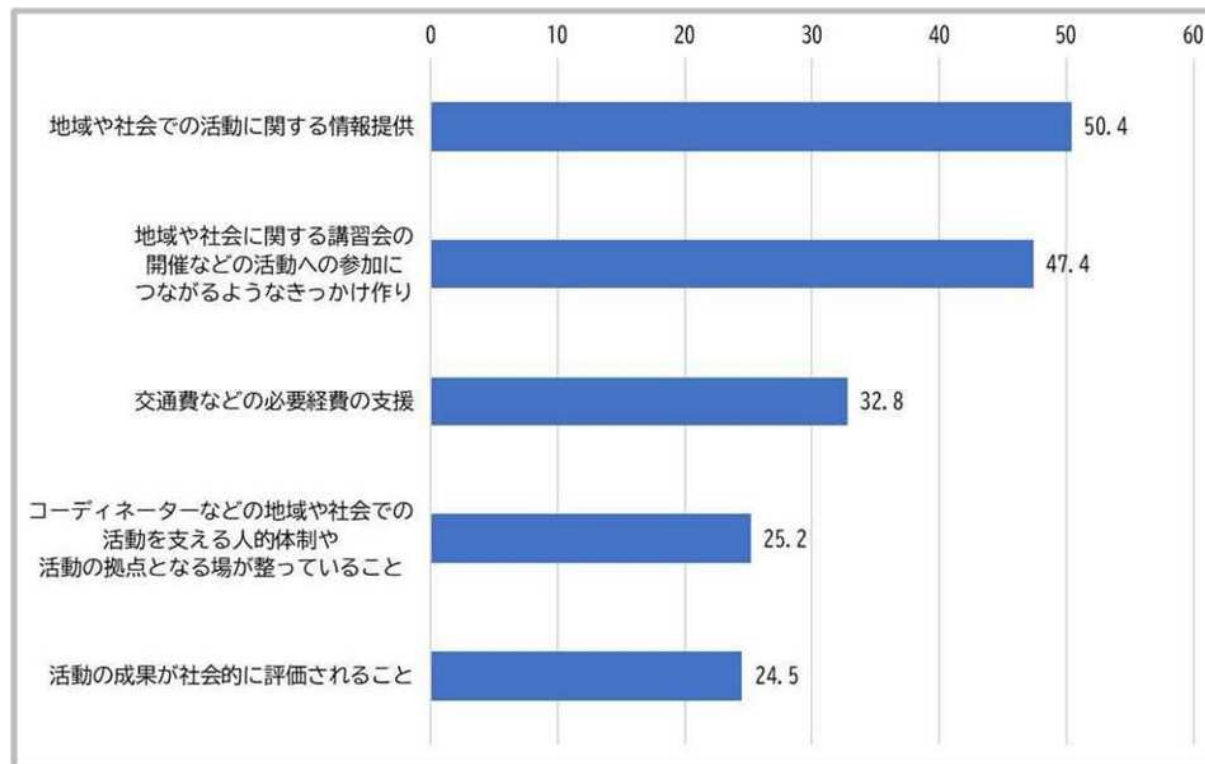


出典：内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」（令和4年7月調査）
(<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-gakushu/2.html#midashi7>)

「学び」の現状

◆多くの人が地域や社会での活動に参加するために必要なこと（複数回答・上位項目抜粋）

活動に関する情報提供に加えて、講習会等の学びを通じたきっかけ作りが求められている。



出典：内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」（令和4年7月調査）
(<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-gakushu/2.html#midashi7>)

次期計画の方向性

「北九州市生涯学習推進計画≪“学びと活動の環”推進プラン≫」期間中は、新型コロナによる市民生活への影響や生成AIの急速な普及等、生涯学習を取り巻く環境は予測困難な時代を迎えました。

このように予測困難な変化の激しい時代では、事業ごとに個別の指標を設ける従来の計画では時代の変化への対応が困難です。

このような状況であるからこそ、次期推進計画では、羅針盤のように理念や大きな方向性を示す「北九州市生涯学習ビジョン」を以下の考え方に基づき策定します。

目指す未来へ向けた生涯学習行政の方向性を示す

「北九州市生涯学習ビジョン」を策定

- 対象期間は2026年～2040年までの15年間です。5年ごとに検証・見直しを行います。
- 北九州市の未来へ向けた生涯学習行政の理念・方向性を示した上で、対象期間のうち最初の5年間の取り組みを中心に策定します。

ビジョンが「目指すまちの未来」

共に学び、共に育つ 「共育」が拓くまちの未来

生涯学習を推進したまちは、市民一人ひとりが、健康で、生きがいを持ち、成長しています。誰かと一緒に学び、活動することを通じて、人や地域と豊かなつながりが生まれ、共に育ちながら、一人ひとりが持っている力が引き出されます。

生涯学習の推進を通じて、市民一人ひとりの力が発揮され、誰もが排除されることなく居場所を持てるまちとなります。

共に学び、共に成長することで、地域コミュニティが活性化され、北九州市の未来を切り開いていきます。

ビジョンが生み出す変革点

生涯学習を身近に

「学び」や「活動」で幸せに

「知らない・誰か」のことを「私たちごと」に

生涯学習を通じて、誰かと一緒に学び・活動することは、地域や社会を知る機会となり、他者とのつながりを生み出します。生涯学習を通じた「学び」や「活動」やつながりは、一人ひとりのコンパッション（Compassion・他者の苦しみや困難に共感し、それを和らげようとする思いやりの感情や行動）を育みます。

コンパッションは、これまでの「知らない」「誰か」のことが、私にも関係や責任がある「私たちごと」へと変化させ、地域や社会、他者へのかかわりを深めていきます。そのかかわりは、楽しさや喜びを生み出し、次の「学び」や「活動」の原動力となります。

生涯学習の機会をさらに身近なものにすることで、一人ひとりのコンパッションを育み、多様な「私たちごと」化が育つ土壌を作っていきます。

ビジョンのコンセプト

“学び”と“活動”による関係づくりを通じた 多様なコミュニティの醸成

“学び”と“活動”による多様なつながりが、多様なコミュニティを醸成します。多様なコミュニティがあり、それらがつながっていくことで、持続可能な地域社会がささえられます。

地域における課題は、その解決だけでなく、課題を発生させない、発生した課題を早期発見できることが重要です。その基盤となるのは人とのかかわり・つながりであり、生涯学習・社会教育が大きな役割を果たします。

「私たちごと」化を通じた 北九州市の未来を創る人材の育成

“学び”や“活動”を通じて、何かを知り、誰かとつながることでコンパッションが育まれ、これまでの「知らない」「誰か」のことが私にも関係や責任がある「私たちごと」へと変化します。

“学び”や“活動”を通じた「私たちごと」化は、個人のウェルビーイングだけでなく、社会のウェルビーイングを向上させ、北九州市の未来を創る人材が育成されます。

ビジョンのコンセプト①

“学び”と“活動”による関係づくりを通じた多様なコミュニティの醸成

生涯学習を通じた“学び”や“活動”は、人が出会い、人とかかわる機会を生み出し、多様なコミュニティを醸成していきます。

地縁という地域コミュニティの基盤となっていたつながりが弱まる中、多様なコミュニティが存在し、それらがつながることは、地域コミュニティを支える大きな力となります。

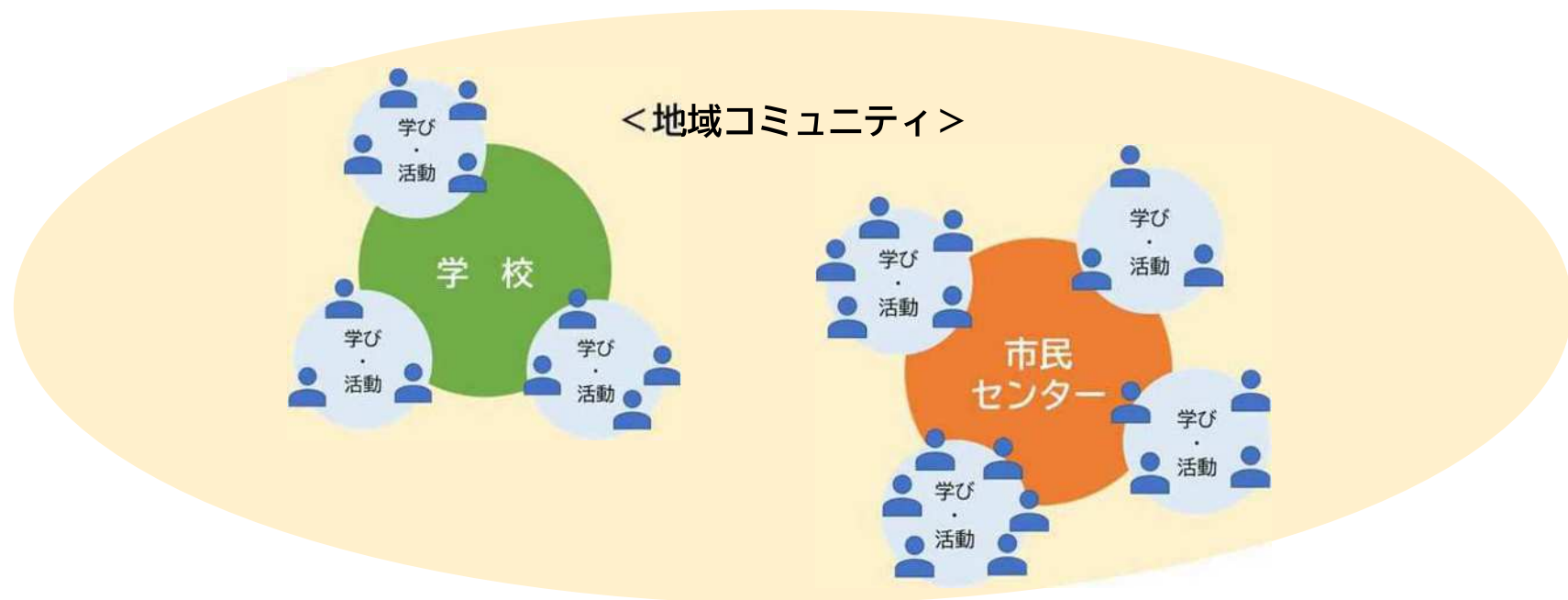
それらのつながりは、地域課題の解決だけでなく、課題を発生させない、課題を早期発見できる「地域力」の基盤となります。

生涯学習は、これからの地域コミュニティの土壌を耕すという重要な役割を果たします。

※「コミュニティ」とは、特定の組織や活動団体を基盤にしたものではなく、人と人とのつながりの総体をさします。地域コミュニティは、ハブとなる施設（市民センターや学校）を起点として、小学校区エリアを想定しています。

ビジョンのコンセプト①

“学び”と“活動”による関係づくりを通じた多様なコミュニティの醸成

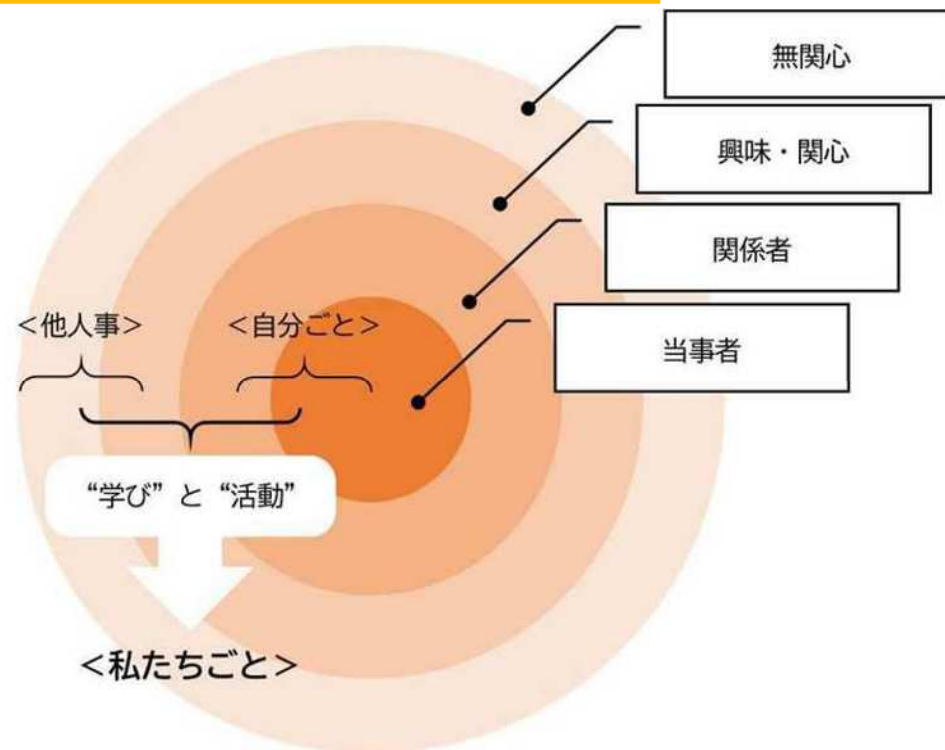


市民センターや学校は、多様なコミュニティが生まれる「人々のハブ（結節点）」となります。
そこでの“学び”や“活動”は、コミュニティの醸成に大きな役割を果たします。

ビジョンのコンセプト②

「私たちごと」化を通じた

北九州市の未来を創る人材の育成



生涯学習における“学び”や“活動”を通じて、何かを知り、誰かとつながることは、コンパッション（Compassion）（他者の苦しみや困難に共感し、それを和らげようとする思いやりの感情や行動）を育みます。

そして、「知らない」「誰か」のことが、私にも「関係・責任がある」こと、「私たちごと」へと変化します。

「私たちごと」化は、社会に関わり、参加することです。一人ひとりの「私たちごと」化は、一人ひとりの社会参加を促進し、北九州市の未来を創る人材へとなっていきます。

ビジョンのコンセプト②

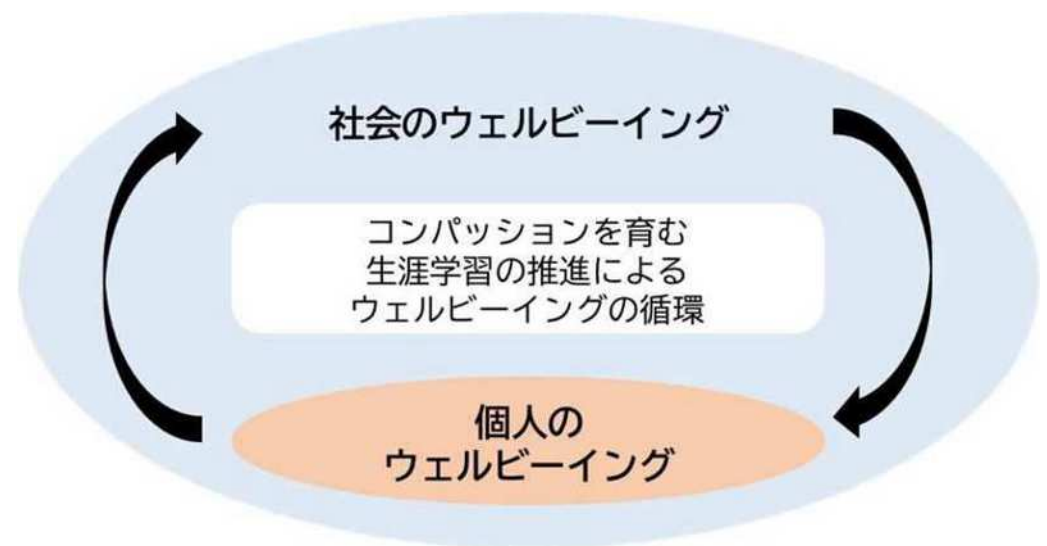
「私たちごと」化を通じた

北九州市の未来を創る人材の育成

生涯学習における“学び”や“活動”は、個人の好奇心を満たし、楽しみやつながりを生み出すことから、個人のウェルビーイングの向上につながります。

同時にコンパッションに基づく「私たちごと」化は、人や地域に関心を持ち、社会参加が促進され、社会のウェルビーイング（一人ひとりが安心して暮らせるより良い社会状態）も向上します。

個人のウェルビーイングと社会のウェルビーイングは密接に関係しています。お互いが良い影響を与え合い、双方が高まるような循環を生み出すことが重要です。そのためには、一人ひとりのコンパッションを育む生涯学習の推進が大きな役割を果たします。



ビジョンの3つの基本方針

“学び”と“活動”

自分らしく、生き生きと暮らすことができる
“学び”と“活動”の
機会の創出

市民一人ひとりが、自分らしく、生き生きと暮らしていくことができるように、多様な学びを提供する環境の整備とその学びを生かす場の創出に取り組みます。

地域づくり

持続可能な地域づくりに
向けた地域力の育成

地域づくり・人づくりの拠点である市民センターの様々な事業を通じて、“学び”と“活動”を通じたつながりづくり、地域コミュニティの醸成を図り、地域力の育成に取り組みます。

人づくり

未来の社会の創り手を
育て・支える人材の育成

地域の団体や人材との連携を図り、未来の社会の創り手の育成と、その創り手を支える人材育成に取り組みます。

ビジョンの基本方針①

自分らしく、生き生きと暮らすことができる“学び”と“活動”の機会の創出

社会変化が激しく、将来の予測が困難な現在、生涯学習を通じた“学び”や“活動”は、自己実現や自己の成長の場となります。教養を身につけ、趣味を楽しむことは、生活の質を向上させます。“学び”と“活動”は、サイクルを通じて、時に一体的に進むことを通じて、学習がより深まり、よりよい活動へと繋がります。

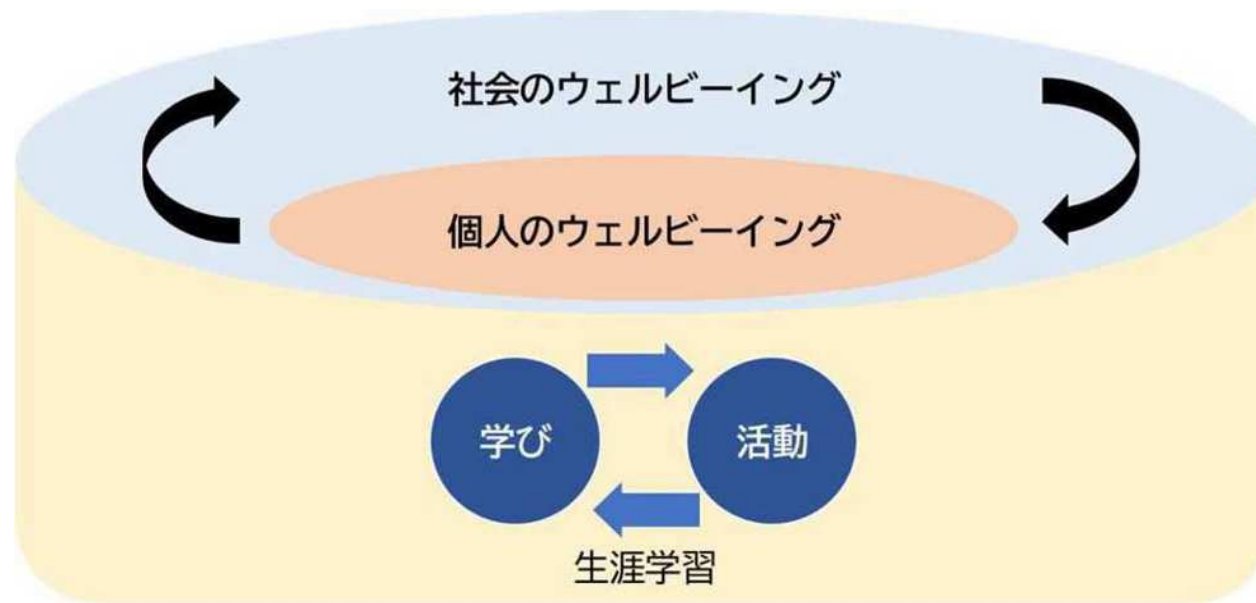
誰かと一緒に“学び”や“活動”を通じて、人との出会い、社会にかかわる機会となります。

多様な“学び”や“活動”の機会を得られることは、個人のウェルビーイングの向上の重要な要素であり、社会のウェルビーイングの向上にもつながります。

市民一人ひとりが、自分らしく、生き生きと暮らすことができる“学び”と“活動”の機会を創出するとともに、多様な“学び”や“活動”のための環境整備を進めます。

ビジョンの基本方針①

自分らしく、生き生きと暮らすことができる“学び”と“活動”の機会の創出



生涯学習を通じた“学び”と“活動”は、個人のウェルビーイングの向上の重要な要素です。

個人と社会のウェルビーイングは影響しあいながら向上していきます。

生涯学習は、個人と社会のウェルビーイングが育つ土壌のような存在です。

基本方針①に基づく取り組み

自分らしく、生き生きと暮らすことができる“学び”と“活動”の機会の創出

<取組のキーワード>

ICTの活用、リスキリング、リカレント教育、学び合い・教え合い、ウェルビーイング、多様性、**多文化共生**、情報発信

<取 組>

◆ 多様な学びの場を提供するための環境の整備

- ・ ICTの活用による「いつでも・どこでも・だれでも」学びやすい環境の整備
- ・ 学びのニーズに合わせた柔軟な時間・場所による学び場づくり
- ・ 届けたい相手に合わせた情報発信のチャネルの多様化
- ・ 質の高い“学び”の提供のための人材育成
- ・ “学び”や“活動”の見える化、成果の共有

◆ “学び”を生かす“活動”の場の創出

- ・ “活動”へつなげるためのマッチングの強化
- ・ “活動”に関する情報発信の強化

【2026～2030年の重点的な取組】

- ICTを活用した学びの環境整備
- 学びの多様化、質の向上のための調査・研究、その成果に基づいた人材育成
- 成果の見える化と情報発信の強化
- 関係機関と連携した多様な学びの機会の創出と情報の一元化

ビジョンの基本方針②

持続可能な地域づくりに向けた地域力の育成

持続可能な地域コミュニティの構築には、地域力（地域課題の解決だけでなく、課題を発生させない、課題を早期発見できる力）の育成が不可欠です。

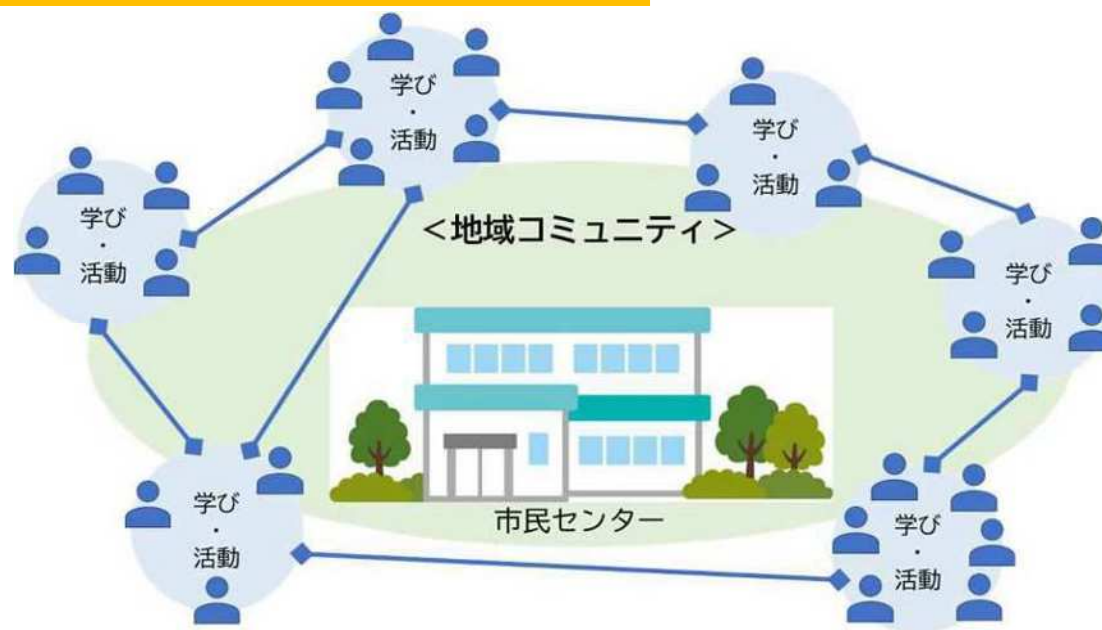
地域の自主的・主体的な地域づくり・まちづくり活動の拠点である市民センターで実施される生涯学習事業や地域住民による生涯学習活動は、地域力の基盤となる多様なつながりを生み出します。

さらに、市民センターにおける“学び”と“活動”では、地域の人や歴史、文化といった身近な資源を活用することで、地域への愛着・誇りを育むとともに、一人ひとりの「私たちごと」化への最初の一步を促します。

※「コミュニティ」とは、特定の組織や活動団体を基盤にしたものではなく、人と人とのつながりの総体を指し、「地域コミュニティ」とは、おおむね小学校区のエリアを指します。（人々の結節点となる学校や市民センターが重要な役割を果たします。）

ビジョンの基本方針②

持続可能な地域づくりに向けた地域力の育成



市民センターでの「学び」と「活動」が生み出すつながりが、地域力の基盤となります。

基本方針②に基づく取り組み

持続可能な地域づくりに向けた地域力の育成

<取組のキーワード>

市民センター、こどもまんなか、多世代交流、ウェルビーイング、社会参加、実践、対話、地域デビュー、**家庭教育**、社会関係資本※

※人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴

<取 組>

- 地域づくり・人づくりのための市民センター事業の充実へ向けた支援体制の強化
- 地域の特性（強み・弱み）を生かした“学び”と“活動”の創出
- 市民センター事業への若者の関与の拡大
- 地域の人材育成の取り組み強化
- **地域のつながりを生かした家庭教育支援**

【2026～2030年の重点的な取組】

- 市民センター事業の支援人材の育成・強化
- 若者が市民センターにかかわる仕組みづくり（制度化）
- 地域人材育成の講座等の整理・強化
- **家庭教育支援の充実**

ビジョンの基本方針③

未来の社会の創り手を育て・支える人材の育成

生涯学習を通じた “学び” や “活動” は、コンパッションを育み、「知らない」「誰か」のことが、私にも「関係・責任がある」こととして「私たちごと」化していきます。

一人ひとりが「私たちごと」化することで、自分が暮らすまちや社会に関心を持ち、現在と未来のまちや社会に責任を持ってかかわる未来の社会の創り手へと変化していきます。

未来の社会の創り手を育て、支えていくためには、行政だけでなく、社会教育団体や社会教育士、学校、NPOや企業等と連携し、“学び” や “活動” の機会を創出していくとともに、未来の社会の創り手を支える人材・仕組みを整えていきます。

ビジョンの基本方針③

未来の社会の創り手を育て・支える人材の育成



様々な主体と連携しながら、“学び”や“活動”を通じて未来の社会の創り手を生み出とともに、未来の社会の創り手を支える人材の育成と体制を構築します。

基本方針③に基づく取り組み

未来の社会の創り手を育て・支える人材の育成

<キーワード>

社会教育士、社会教育団体、ネットワーキング、支援組織、人材育成、多様な主体との連携、学校（コミュニティ・スクール）との連携

<取 組>

- 未来の社会の創り手を育成する多様な機会の創出
- 未来の社会の創り手を支える人材の育成
- 未来の社会の創り手を支える支援組織の設立
- “学び”と“活動”を支える関係団体や
社会教育士等の社会教育人材のネットワーク化
- コミュニティ・スクール、高等学校や大学との連携促進

【2026～2030年の重点的な取組】

- 社会教育団体や社会教育士等のネットワーク化
- 未来の社会の創り手の育成、支援人材の育成
- 大学連携の拡大